

平成30年度 議会報告会開催結果報告書

1 概要

	第1回（民生文教常任委員会）	第2回（建設公営企業常任委員会）	第3回（総務常任委員会）
日 時	平成30年11月15日（木） 13:00～15:00	平成30年11月16日（金） 10:00～11:41	平成30年11月23日（金・祝日） 14:00～16:00
会 場	市役所南館4階 大会議室	市役所南館4階 大会議室	保健福祉センター3階 会議室1
出席議員	（班長）（司会）福井利道 （報告者）帰山和也 （記録作成）前田辰一 長谷基弘、長野良三、 福井美奈子、平野貞雄 （副議長）福井美奈子	（班長）田原俊彦 （司会）寺前尊文 （報告者）中島健一 （記録作成）いとうまい、山田みち子 ひろせ久美子 （副議長）福井美奈子	（班長）大原裕貴 （司会）徳田直彦 （報告者）岩岡りょうすけ （記録作成）森しずか 重村啓二郎、中島かおり、松木義昭 （副議長）福井美奈子
参加人数 （合計47人）	21人	16人	10人
内 容 （共 通）	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="flex: 1;"> <ol style="list-style-type: none"> 1 開 会 2 副議長あいさつ 3 平成29年度決算審査について（報告） 4 質疑応答 5 意見交換 </div> <div style="font-size: 3em; margin: 0 10px;">}</div> <div style="flex: 0.5;">各回共通</div> </div>		
意見交換 のテーマ	ごみ処理について	無電柱化の取り組みについて	公共施設等総合管理計画について

(1) 当日の配布資料

No.	資料名
1	次第
2	議会のあらまし
3	次の議員と市長の任期は短くなります
4	議会改革の取り組み
5	平成29年度 決算審査について（内容「3 平成29年度決算審査について」の資料）
6	平成29年度 決算特別委員会委員長報告資料
7	わたしたちの意見や要望を市へ届けるにはどうすればいいの？
8	あしや市議会だより No.106
8	芦屋市議会に関するアンケート

(2) 平成29年度決算審査の報告

○平成29年度決算審査の報告は、配布資料 No.5とスライドを使って報告を行いました。（15分程度）

○報告者は、民生文教常任委員会は帰山和也議員、建設公営企業常任委員会は中島健一議員、総務常任委員会は岩岡りょうすけ議員です。



2 質疑応答

(1) 第1回（民生文教常任委員会）

※赤字の記載は、議会報告会終了後（11月末時点）に執行機関側へ確認した内容です。

質問・意見等	回 答
<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと納税は、個人市民税の多い芦屋市では減収の影響が大きいのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・減収は今年度でも4億円ほどあった。ふるさと納税による減収は増加傾向にある。返礼品競争の問題意識もあるが、芦屋市民が芦屋市にふるさと納税という考え方も必要か。（← 議会報告会終了後に執行機関側へ確認したところ、下記のとおり。平成28年度ふるさと寄附金額 約1億3,720万円に対し、平成28年分の所得額・控除額を基に課税される平成29年度の個人住民税は約3億6,640万円の減収、平成29年度ふるさと寄附金額 約7,240万円に対し、平成28年分の所得額・控除額を基に課税される平成30年度の個人住民税は約4億8,300万円の減収となる見込みとの回答を得ています。）
<ul style="list-style-type: none"> ・市債が減少し安定しているとのことだが、台風21号の被害に対する改修財源はどうなるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・財源は基本的に施設管理者が負担することになっている。潮芦屋の護岸、宮川の河川堤防は県管理となっている。 ・護岸整備などに対し、市長と議長の連名で県に要望書を提出している。
<ul style="list-style-type: none"> ・浸水被害が発生したが、下水道の逆流もあるのではないかと所管課に調査依頼をしている。対策を講じるにはポンプ場設置も必要と感じている。この場合には市費が必要ではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ご意見ありがとうございます。



(2) 第2回（建設公営企業常任委員会）

質問・意見等	回 答
<ul style="list-style-type: none"> ・ 法人市民税の減少理由は。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 芦屋市にはもともと法人数が少ないためもともとの法人市民税は約10億円、1法人が無くなった時の割合減少が大きくなってしまう。
<ul style="list-style-type: none"> ・ Wi-Fi セキュリティと到達距離は。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ Wi-Fi セキュリティは、暗号化されている HP を活用することによって守っていきたい。Wi-Fi に接続する際に、メールアドレスなどのインプットが必要だが登録というわけではない。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 少子高齢化や今後増大する社会保障費を考えると、財政安泰でないと考え。説明では財政運営はうまくいっているとの発言との関連性は。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 芦屋市に限らず全国的な問題。芦屋市は平成15年から行財政改革を行うほか、各議員も委員会や一般質問で課題解決に取り組んでいる。芦屋市は個人市民税が多いために安定的な歳入見込みとなっている。公共施設についても人口規模に併せて整備や民間の活用も必要となる。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 決算報告より予算の報告をやって欲しい。若い世代たちの誘致をしないと衰退する。戦略的な総合戦略の予算を考えて欲しい。芦屋市の魅力的な子育て世代を引き付ける考えを持つべきである。住みたいまちとして過去は評価されているが最近では尼崎市などが上位になっている。芦屋市のロードマップを作成し芦屋の魅力を発信するべきだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 以前から予算報告の要望は認識している。決算でどのようにお金を使用したのかを検査し、それを次年度の予算に反映させるようにしている。芦屋市の将来については総合戦略を作成し、シティプロモーションや学校給食に力をいれて、国際住宅都市としてしっかりアピールしていく。



(3) 第3回（総務常任委員会）

質問・意見等	回 答
<ul style="list-style-type: none"> ・キッズスクエア、公共施設Wi-Fiの費用、予算はいくらか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・3600万円、547万円。（← 議会報告会終了後に執行機関側へ確認したところ、キッズスクエアの平成29年度決算額は2866万円との回答を得ています。）
<ul style="list-style-type: none"> ・決算資料書類はどこで見ることができるのか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・市役所の行政資料コーナーなど。
<ul style="list-style-type: none"> ・市税収入について、自主財源65.1%をどのように評価しているのか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・全国的には高い比率であり、いつかは不交付団体になるといわれている。増える扶助費、インフラ整備などにより慎重な財政運営が必要。
<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き慎重な財政運営というその中身の定義は何か？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成37年をピークに人口減となり、税収は変わる。増える扶助費、インフラ整備などにより慎重な財政運営が必要。 ・慎重な財政運営と言うが、住民の福祉のためには「自治体の役割」があり、そのための財源はあると考える。 ・市税収入の減少が見込まれるため新規の大規模な投資事業は慎重に考えねばならない。例えば、無電柱化、パイプライン、幼稚園と保育所など事業の統廃合、民間活力で低廉な予算で良いことをやろうという意見の議員や会派もある。
<ul style="list-style-type: none"> ・市長と同じ説明だが、議員の立場で、どう運営すべきという方針はどこにあるのか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・議会だよりで各会派により意見が違うことを説明。
<ul style="list-style-type: none"> ・行政も戦略経営の時代だ。何を大事にしていくのかをしっかりとしないといけない。幼児教育の先進都市である芦屋市らしさを残してほしい。 	

質問・意見等	回 答
<ul style="list-style-type: none"> ・ 公共施設管理計画について、地方債と交付税の関係と言う具体的な話がなかったのは残念だ。精道幼稚園と保育所の統廃合、西藏子ども園、民間となる朝日ヶ丘幼稚園の地下駐車場など総務省の起債発行になるのか。交付税があるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 調査の後、回答する。(← 議会報告会終了後(平成30年11月末)に執行機関側へ確認したところ、精道幼稚園と精道保育所の統廃合、西藏子ども園、朝日ヶ丘幼稚園の地下駐車場にかかる費用については、条件のいい地方債の選択など、これから最適な財源構成を精査するとの回答を得ています。)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 議会内の自治のことだが、市民の声を反映する議員が議会に一時期出席できなかったことは、市民の立場でいうと問題だ。議会の人事に共産党を入れないということがあったのか。市民の一部の声を封鎖することになるので聞きたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 委員会の互選で決めるので、決めごとはない。



3 意見交換

(1) 第1回（民生文教常任委員会）【テーマ：ゴミ処理について】

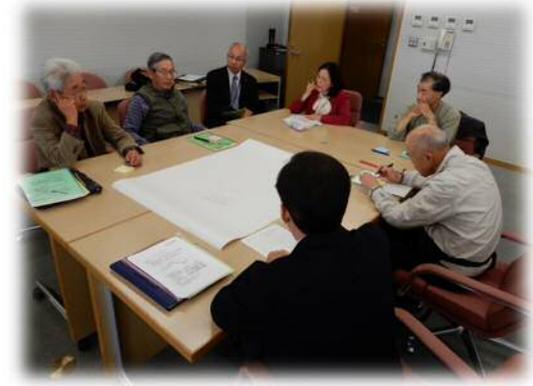
○はじめに情報共有として、福井利道議員から、「西宮市とのごみ処理広域化について」、「パイプラインについて」、「カラス対策について」の3項目について説明を行いました。

○その後、参加された市民全員と民生文教常任委員会委員が4班に分かれて、それぞれで意見交換を行いました。

○意見交換の後に、各班で共有した内容は下記のとおりです。

1班	2班	3班	4班
<p>◎焼却施設等の広域化について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 芦屋で自己完結するものとの意見。 ・ 中核市(西宮市)に負けないように協議を進めること。 ・ 事業会社にして営利集団もよいのでは、売電もある。 	<p>◎焼却施設等の広域化について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 早く進めるべきではないかとの意見。 ・ 費用負担について意見が出た。 ・ 災害時の責任分担がデメリットであるとの意見。 	<p>◎ごみの減量とごみマナーについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ トライアルウィークで、通学路のごみが目立つ。きれいなごみ袋で景観に配慮しステーションがきれいになると意識が変わると中学生の提案があった。 ・ ごみの減量化について、市民の意識改革が必要。学校教育が重要である。 ・ 以前に比べごみが少なくなったと感じる。早朝にごみ回収しているボランティアの人もおられ、市民意識に支えられてきれいになったが、一方でマナー無視もある。 ・ ごみの有料化、他市ではごみ袋の色を変えている所もある。 	<p>◎焼却施設等の広域化について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 広域化協議の背景は、議会として協議はどのようになされているのか知らせてほしい。

1 班	2 班	3 班	4 班
<p>◎パイプライン施設について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・改修の必要性の認識があれば積み立てが必要であったのではないかと ・運営者の責任として利用者への説明が必要となる。 	<p>◎パイプライン施設について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・代替案の提案として地下ピット方式などの意見交換があった。 ・維持管理費の抑制を進めることについての意見交換があった。 		<p>◎パイプライン施設について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各家庭の減量化の取組みが必要である。 ・行政の広報も丁寧に進めてほしい。 ・3Rの取組みなど啓発強化が必要。
<p>◎カラスのごみ被害対策について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・解決している地域もあり、情報交換を行い、全市的取組みとしていくべきである。 		<p>◎カラスのごみ被害対策について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カラスネット等による利用者の努力で被害を減らしている。 ・春や秋の落葉時には自発的に収集しているが、体力的に無理になれば止めざるを得ない。その時は市でお願いをする。 	



(2) 第2回（建設公営企業常任委員会）【テーマ：無電柱化の取り組みについて】

○はじめに情報共有として、田原俊彦議員から、芦屋市の無電柱化の取り組みについて説明を行いました。

○その後、参加された市民全員と、建設公営企業常任委員会の全委員が、対面方式で意見交換を行いました。

参加者	議員
<ul style="list-style-type: none"> ・芦屋市は無電柱化をどの方式でやるつもりか、地中化すると阪神大震災の時に困難なのは電気が先でガスが最後だったので不安である。地中化した場合の不安は台風21号で明らかになったように思う。長時間の停電が南芦屋浜であった。関西電力の変電所施設は無くなるのか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本は地中化方式で行うと思う。地震や災害に強い資材・構造になっていると聞いている。南芦屋浜の停電は地中化が原因でなく、他のエリアから南芦屋浜までの送電箇所の破損だと聞いている。変電所施設はなくなる。
<ul style="list-style-type: none"> ・幹線道路が優先された推進計画であるが、歩道がない、あるいは狭い住宅地をもっと増やしてやって欲しい。コストが一番の課題だと分かったが、5年を目途に早く着工して欲しい。10年は長い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市長は全市を無電柱化と言っているが、費用負担が53万円/mと高額であり、どうしても長期的な事業になると考える。計画に入っていないくても、地域で希望があれば個別に対応したいとの市の考えもある。
<ul style="list-style-type: none"> ・すべてはコストの問題。住宅地（車の交通量が少ない地域）では比較的浅い場所にパイプを埋設する方式があり費用が3割ほど安くなると聞く。10年20年先ならば市内のどこでいつ着工する町ごと地域ごとにロードマップを作成すべきだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の推進計画は短期と中長期にわかれており、中長期は状況に合わせて見直しを行う。地域単位というより、路線ごとの考えかたになる。まちづくりとブランドづくりを一緒に行っていくのが、無電柱化だと考えているのでモデル地区での実施もある。
<ul style="list-style-type: none"> ・資料の7ページでは、地中化も2手法あるがどちらになるのか？意見としては、8ページと11ページの写真。茶色いトランスがあるが水没した潮芦屋ではこのトランスが水没したための停電であったと聞く。予算はブランドイメージだけでなく、もっと子育て支援に予算を配分すべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・電線共同溝方式になると思う。涼風町では、関電さんが住宅内の配線を真水で洗いチェックする作業もあり、海水浸水に対する事後処理リスクはあると思う。

参 加 者	議 員
<ul style="list-style-type: none"> ・指標は説明の通りだが市民利用者に先にアンケート調査なりをやるべきだろう。安全安心をいうならマーケティングをしっかりとって計画を立て、行政が勝手に決めるべきでない 	<ul style="list-style-type: none"> ・まずは、防災・安全安心が優先されるべきだと考える。また、推進条例を制定するにあたり、パブリックコメントで住民の意見も反映するようにしている。
<ul style="list-style-type: none"> ・条例を決める場合はパブコメをするのは知っているが、他の政策においても議会の多数決があまりにも目立つようになった。民主主義の基本をしっかり勉強してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市・国・電線管理者で1／3ずつの費用負担となる。国道や県道は、芦屋市の負担はない。
<ul style="list-style-type: none"> ・県道や市道での費用負担の割合の確認。芦屋市が計画を前倒しで事業を行いたいと言え、国や電線管理者は際限なく事業費を出すのか？水道管などと同様に耐久年数・メンテナンスの必要性について、一度地中化してしまうと、永遠と続けないといけないのでは？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・国や管理者が際限なく費用を負担することは考えにくく、まずは住民さんの理解を得たうえで、費用負担を行う3者の協議・関係作りが重要となる。メンテナンスは必要になるが費用は不明、技術革新により耐久年数は増えると考え。
<ul style="list-style-type: none"> ・芦屋市の条例は評価されるべきです。欧米やアジアでも進んでいる。費用の問題 PFI 方式の導入をはじめ民間資金の活用に対する姿勢があるのか？地域との連携を強める。PR をするべきです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・芦屋市ではすでに公営住宅集約事業で PFI を導入しているので、民間資金の活用にも前向きであると考え。
<ul style="list-style-type: none"> ・財源の確保が見えていない。クラウドファンディングの検討や基金への寄付金などあらゆる手法で財源確保をしていただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと納税の項目にも入れており、年間500万円の寄付を目指している。



(3) 第3回（総務常任委員会）【テーマ：公共施設等総合管理計画について】

○はじめに情報共有として、大原裕貴議員から、「芦屋市公共施設等総合管理計画」について説明を行いました。

○その後、参加された市民全員と総務常任委員会委員が、本会場（福祉センター会議室1）と別会場（福祉センター会議室2）の2班に分かれて意見交換を行いました。

本会場班	別会場班
<p>◎公共施設の統廃合について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・使うお金を少なく、大きな利益を生むという説明があったが、どう使っていくかが行政の基本だ。 ・幼稚園と保育所の大規模な統廃合では、子どもや家庭の把握ができなくなるのではないかと。効率を追いかける部署ではないので気がかり。 ・幼稚園と保育所の統廃合は、当事者の声をもっとよく聞いて計画する必要があるのではないか。 ・JR南再開発事業についてもやり方が気になる。 <p>◎施設の管理について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民がどう使うか、どう使いたいかをふまえた管理計画があるべき。ハードだけの計画であり残念だ。40年後お金が無くなっても市民がどう使うかわかっていれば、市民が引き受けるという道筋も出てくる。意見交換で出たものを持ち帰り、市民目線で公共施設の計画を立てるべき。 ・国は80年スケールだが、芦屋の50年ひとサイクルではコストがかかる。市民の気持ちをくみ取っていくということだと思うが、どこまでコストをあげるのか疑問。 	<p>◎施設管理について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の施設の見学にいったか？ ⇒ 秦野市、立川市へ ・公共施設の整備は必要だが、一方で無電柱化計画がある。 ・市の施設では新築が増えている。施設をさんざんつくって、もうなくすという風に見える。若い人には、市はお金がないのかあるのか分からない。新築をやるのかやらないのか、議会が問われている。 ⇒ 新築では、補正予算で審議するのでお金がかかる。 ⇒ 新築でつくる場合、投資よりも大きな利益を生む施設でなければならない。ただ、工事を始めて見ると追加で費用が発生することもある。 <p>◎東館建設について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・役所の建物がどんどん建ち、つくり過ぎのように思う。総合計画にないものも。庁舎関係の建物ばかりが建つ。 <p>◎公共施設の統廃合について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・説明に異議ある。幼保問題では約20億円という税金が動くが、基本的なこ

本会場班	別会場班
<ul style="list-style-type: none"> ・ 行政の最低限の役割は守る立場を求める。50年先の計画を立てても意味がない。1年先再来年の計画をしっかりと立てて積み重ねていくことを求める。 ・ 計画のやり方として、1人当たりの延床面積をいわれても市民にどれだけ響くか疑問。利用頻度を指標で示せば、重要度が高いことがわかるが、そういうのがないから冷たい感じを受ける。 ・ 幼稚園の統廃合については、議論をしてきた。 ・ パイプラインの維持管理について、現状を反映した今後を知りたい。市民がどう使っているのか、指標(使用頻度)で示した議論を望む。それを示すのが議会の役目。他の公共施設でも必要度など市民の心に響くものを作ってもらいと議論になる。 <p>◎その他(テーマ外)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 町内会のイベントで聞いたので、興味があった。時間が合ったから来たままで、意見はない。 ・ 市民とつながりたいというのであれば、それに近づけるような資料を出してほしい。市民にオープンにしてほしい。 	<p>とが議論されていない。財政効率に関して民間でも変わらないとの説明だったが、(他市の)民間(保育所)では少なくない問題が起きている。例として、姫路のワンズマザー、八尾市のセクハラで保育士の大量退職による廃園、夢工房など、民間事業者は昔と違い保育を儲けにしているところもある。ひも付き交付金、選定委員会の問題などあるが、開園してもチェックする機能が必要である。</p> <p>⇒ 正規の雇用ではニーズがなくなっても定年まで雇用しなければならない。民間の力の発揮、保育士の処遇改善に繋がるような提案もしている。</p> <p>◎その他(テーマ外)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 説明が行政のようだ。 ・ 市民の側から(視点で)チェックしてほしい。 ・ 議会は多数決で決まる。ひとりがいくら良い意見を言っても通らない。多数がもっとしっかりしてほしい。 ・ 与党だから市長から先に話があるわけではない。 ・ 行政の提案を承認するだけになっている。議会は市民の代表なので、行政の手下にはならないように。 ・ 議員の対応が遅い。議会は事業の進め方に参加していない。 ・ 市民の声が反映できる仕組みが必要。まちづくりのなかで公共施設がどうあるべきか考えていきたい。 ・ 市民が声をあげても議会に届かない。

本会場班	別会場班
	<ul style="list-style-type: none"> ・時には予算で否決することも必要では。そういうことが起きれば、行政も余裕を持って議会に情報公開する。 ・効率化を追求すれば、芦屋市らしくなくなる。 ・議員側の話・説明が長い。



ご参加いただいた皆様、貴重なご意見を頂戴した皆様、誠にありがとうございました。